

# 初代イクメン、 消費者行政でも前例を創る

於：前例を超える・前例を創る  
(国際医療福祉大学大学院)



2020年11月18日(水)  
「経産省の山田課長補佐、  
ただいま育休中」著者  
山田 正人

## 自己紹介

- 1991年東京大学法学部卒、通産省入省
- 1996年~8年 米国デューク大学MBA
- ずっーと激務だった
  - ー 終電で帰れると小躍りして喜ぶ
  - ー 暗いうちに家に帰りたい
- 2003年~2004年 原子力政策課
- 2004年~2005年 一年間の育児休業
- 2009年~12年 横浜市副市長
- 2014年~15年 消費者庁
- 2020年10月~ 内閣府河野大臣直轄チーム

# 本日お話をさせていただく内容

1. 父親の育児休業の経験
2. その後、  
    周囲や世の中はどう変わったか
3. 消費者行政での挫折

3

## 育休を取得したきっかけ

- 2004年11月～2005年10月末まで1年間
- 第3子の育休(上の双子は妻が育休)
- 夫婦で同じ年に同じ大学の同じ学部を卒業し、  
    同じ役所に同期入省
- 第3子妊娠の受けとめ方の違い
- 仕事の巡り合わせ
- 「子育てはお母さんにしかできないの?」とい  
    う素朴な疑問(一種の社会実験)

4

# 決断した際の周囲の反応

- 妻
- 子ども(双子)
- 実の両親
- 妻の両親
- 職場の上司
- 職場の同僚
- 友人・知人

5

## 実際に男性が育児を始めてみると・・・

- 育児は大変！
  - 体力・筋力
  - 睡眠
  - 想定外惨事
  - 理屈通じず
- 「密室育児」
  - おしゃべり
  - 仕事から離れるつらさ

6

## 男性ならではのつらさも

- ・近所からの好奇の目（マンションの管理人、医者）
- ・保育園からの疎外
- ・公園デビューの難しさ
- ・居場所・訪ね先がない
  - 風邪をきっかけに一種の「プチうつ」に

7

## プチうつからの脱却

- 職場の先輩・友人・後輩からの励まし
- 「完璧」主義からの決別
  - 「無理しない育児」をスローガンに

8

# 新しい発見と成長を感じる6つの点 ～パパの子育ての満足度は高い～

→パパの育休の満足度は高い  
(多くの経験者が語る)

- ① 子どもの成長が目に見える喜び
- ② 無償の愛に気付く(自分が育てられる)
- ③ 親子関係によい影響(しつけ)
- ④ 地域社会とのつながり(子育て支援拠点)
- ⑤ 職場が“特殊な社会”との自覚
- ⑥ 夫婦間のコミュニケーションの改善(家事・育児の価値)

9

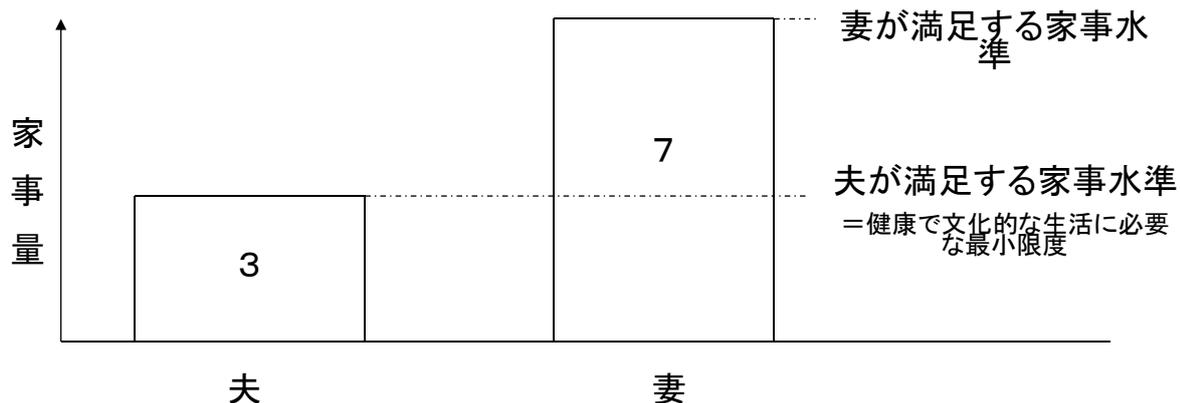
## 子どもが生まれる前の家事量を10とする

理念は、夫：妻＝5：5の分担比率



現実には、理想とする家事のレベルが違った！

「君が必要だと思うなら、君がやってよ」



# 子どもが生まれると

- 家事量は10→100に！
- 子どもの健康・衛生を考えると、“必要論”はナンセンス

＜双子育児の頃(妻が育休、夫が継続勤務)＞

夫:妻=3:7 ⇒ 夫:妻=10:90

夫:「今までの3倍以上やっているのに・・・」

結局のところ100の必要家事量の全貌を理解せず

妻:「夫は前にもまして家事をやらなくなった(怒)」

## 育休をとった後の家事分担

- 家事・育児の最終責任者となる。
- 初めて必要家事量が100であることを実感。
- 改めて、50:50の分担を理想に。
  - 合理化できるところは合理化(洗濯)
  - 機械化できるところは機械化(新三種の神器)
- 二人とも家事・育児ができると、何も言わずにアイコンタクトすらなく意思疎通ができる！

## 職場に復帰した後の仕事は？

- 週2回(水・金)の定時退庁→育ボスに上手に甘える
- 周辺にも変化が発生
  - 育休もそれ以外も
- 配属先の工夫
  - スタッフ職
  - 時間の融通がきくライン職 → 家庭の事情を共有
  - (妻の実家を2世帯にした上で)管理職
- 2009年12月～2012年3月横浜市副市長に
  - 「パパがいなくなった！」
  - 水・金を定時退庁に戻すことに
- 2012年4月～夫婦とも霞が関の管理職

13

## 山田家流の仕事と育児との両立のヒント

- 最も頼るべきは配偶者(パートナー)
- 水金と月火木に当番日を固定化。周囲に認識させる。
- 二人とも絶対に休めない、ということはそうそうない。(夫の仕事を聖域化すると、妻は、常に仕事と育児の板ばさみに)。
- 夫の戦力化により緊張感は半分どころか1/5に。

14

## 育休経験が仕事にもたらした6つのメリット

- ① 仕事の能率の向上(集中力)
- ② 無駄な仕事を合理化する努力
- ③ 自分の仕事を客観視できる  
→ 財サービスの受け手の側としての経験
- ④ 部下に対する心の余裕(管理能力の向上)
- ⑤ 組織へのロイヤリティの向上

↓

広い意味での人生全体でプラスなのは、もちろん仕事という狭い世界の中でもプラス

15

## 社会実験の結論は？

男性でも子育ては全く問題ない。

- 第一声 ぱっぱっぱっ
- パパと一緒に寝る子に
- 唯一の例外は初乳のみ

腕力・体力という点では

男性が優位な点も多い。

16

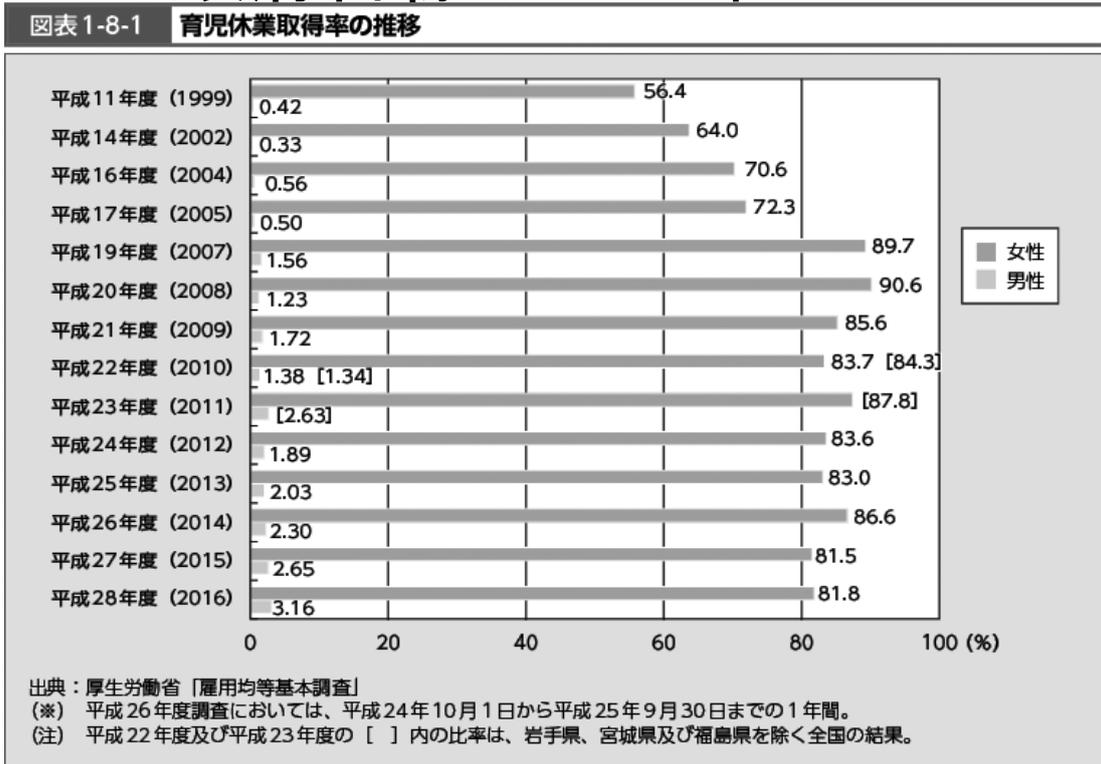
## その後の山田家

- 高3の双子と高1の男児
- 小1プロブレム
- 小4プロブレム
- 物理的には手を離れるが。。。。
- 男女共同参画的価値観
- 課題は食育、勉強
- 少なくとも夫婦どちらかは一緒に食卓を囲む

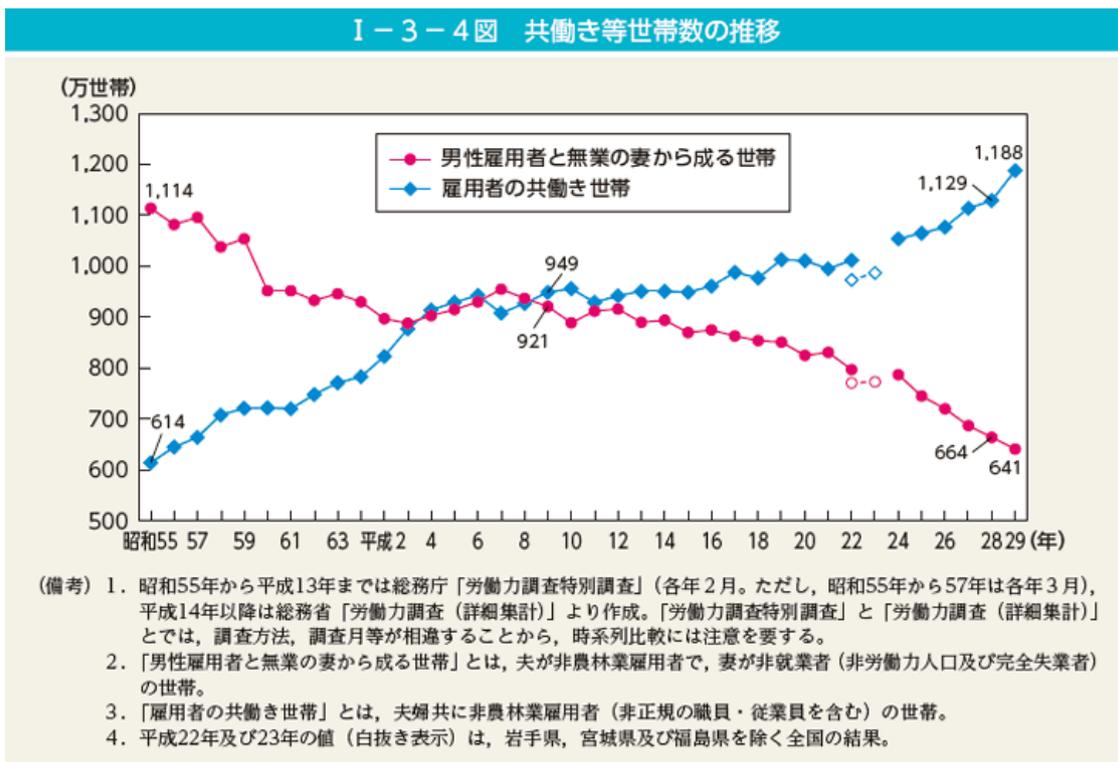
イクメン～2012年3月に野田総理を訪問～  
政府もイクメンを称揚



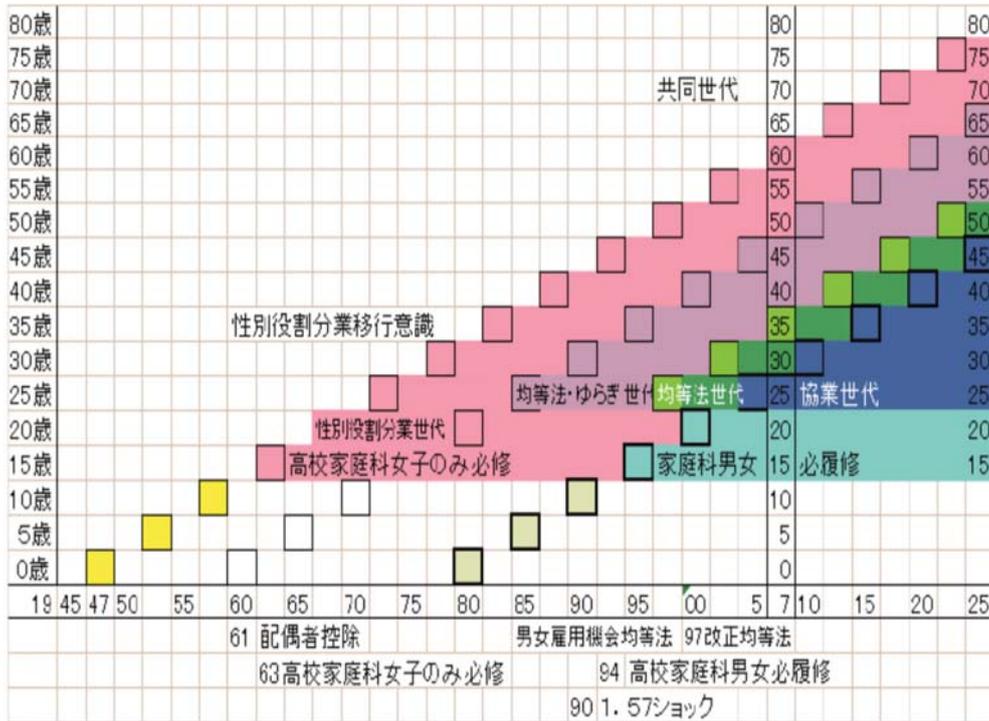
# 男性の育児休業取得率は伸びているが 政府目標は2025年30%



## 共働き世帯が例外から主流に

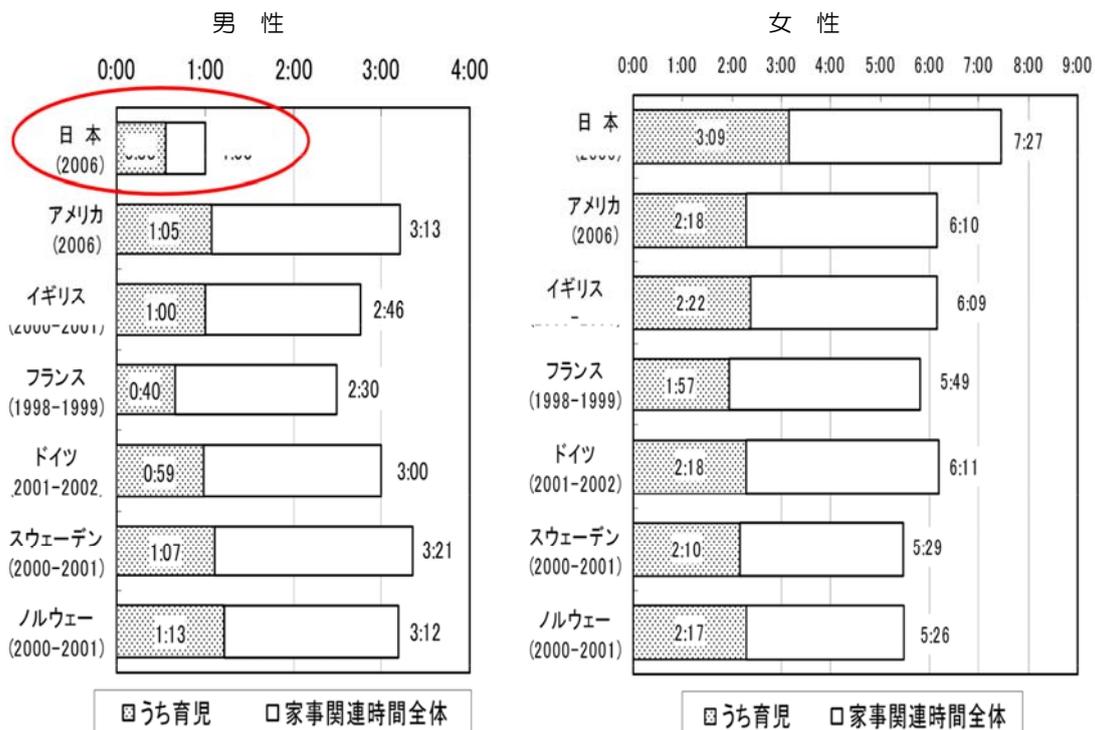


# 世代間で異なる意識



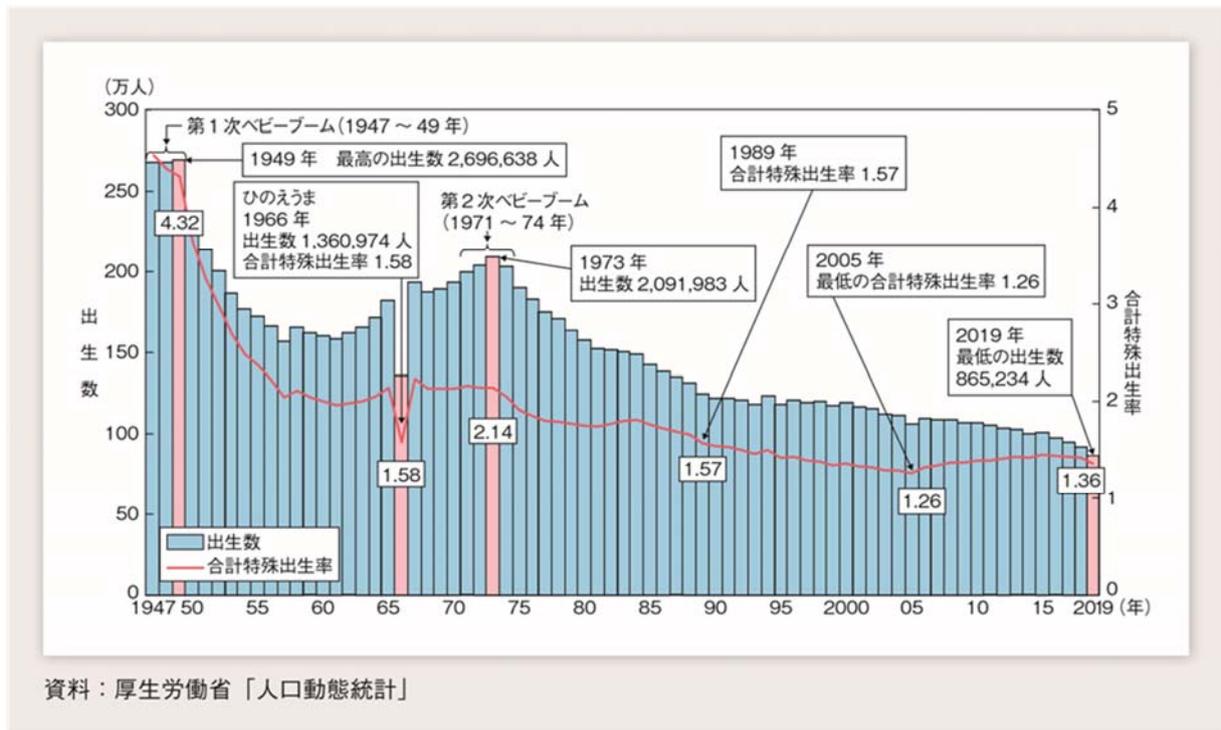
(出典)お茶の水女子大学御船美智子教授作成資料<sup>1</sup>

## 圧倒的に少ない日本の父親の育児・家事時間 ～しわ寄せは母親に～



出典: Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004)、Bureau of Labor Statistics of the U.S. "America Time-Use Survey Summary" (2006)、総務省「社会生活基本調査」(平成18年)

# 少子化の推移



(出典) 令和2年少子化社会対策白書 23

## 消費者庁での挫折

- 2014年7月～ 消費者庁取引対策課長
- 特定商取引法の改正の検討
- 不招請勧誘規制の検討
- 2015年8月 異動

## 前例を創る(1)

- 国家公務員は法律上身分保障がある。
- 政治家は次の選挙を意識した判断せざるを得ないが、役人は短期的なポピュリズムにとらわれることなく、長期的な展望で、国にとって正しい選択を追求できる。
- 国家公務員は、政治家に対し、正々堂々と正論を主張することが、日本国の法律の仕組みとして期待されている。

25

## 前例を創る(2)

- 政治家ににらまれると左遷される(何回も経験済み)。でも、命がとられるわけでもないし、首にはならない。
- 案外、周りの人は見てくれていて、ほとぼりが冷めたら、またチャンスを与える(こともある)。期待はしない。
- 「風車、風が吹くまで昼寝かな」(広田弘毅)
- 天が自分を必要とすれば、必ずチャンスが来る。こななければ、自分はその程度、と割り切る。

26

## 前例を創る(3)

- 理想を高く掲げる。自分の子どもに語れる仕事をしよう。
  - 嫌いな言葉は「落としどころ」
  - モットーは「できるまでやればできる」  
「できるまでやらないからできない」  
(一歩間違えればブラック職場だが(苦笑))
- ↑
- ↓
- 周りをキョロキョロみる。
  - 摩擦が生じない範囲で小さくまとめる。

27

「経産省の山田課長補佐、ただいま育休中」  
(文春文庫・電子版)  
是非、御一読を！



28